

課題1 適切な語を用いた会話文の組立

問題 64

次の1～4の会話文の()にあてはまる最も適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- 4 A : () Ken and Mike play tennis every day?
B : No. They play tennis on Sunday.

ア Is イ Are ウ Do エ Does

<経年比較>

年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
通過率 (%)	21.3	30.4	38.3	37.2
誤答 does	20.3	23.3	21.9	31.4
誤答 is	25.3	18.7	14.9	13.6
誤答 are	32.0	26.3	23.6	16.8

主な誤答と無解答	割合 (%)
エ	31.4
イ	16.8
ア	13.6
無解答	0.8

誤答 エ

この英文の動詞が一般動詞の play であることを理解しているが、主語が複数であることが理解できていない。 【31.4%】

誤答 イ

主語が複数であることは捉えているが、この英文の動詞が一般動詞の play であることを理解できていない。 【16.8%】

この設問は、平成21年度から出題し、4年間連続して最も通過率が低く、継続した課題である。

今年度、これまでの疑問詞で始まる疑問文の形から、Yes, No で答える疑問文の形に変更して出題したところ、通過率は下がり、疑問詞の有無に関係なく、主語と動詞に応じて、適切な疑問文を構成する力の定着が不十分である。

しかし、平成22年度以降、is, are を誤って解答する生徒は減少していることから、be 動詞と一般動詞の違いについての理解は進んでいる。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を、「まとめ」などとして比較対照しながら整理しましょう。例えば、「動詞のまとめ」として be 動詞と一般動詞について、動詞の用法や動詞を含む肯定文、疑問文、否定文の構造の特徴を比較対照しながら理解させましょう。
- 文法事項について、3年間の中で計画的に繰り返し指導を行いましょ。例えば、「一般動詞の現在形」の指導を、現在進行形、過去形、過去進行形のそれぞれの指導時や指導の前後に位置付けましょう。

- 主語は赤丸で囲む、動詞には青線を引くなど、主語と動詞に着目させて、文構造を視覚的に理解させましょう。
- be 動詞を含む疑問文と一般動詞を含む疑問文の構造を比較させながら、その違いを視覚的に理解させましょう。

<事例紹介> 三次市立川地中学校

ポイント

文型黑板(文構造を示すための専用小黑板)を用いたドリル学習を行う。

目的 (1) be 動詞と一般動詞を区別して正しく使う力を付ける。

(2) 代名詞を正しく使う力を付ける。

① be 動詞

疑問文	主語(～は)		be 動詞	
Am	一人称	I	am	a teacher.
Are	二人称	You	are	
Is	三人称	単数	He She It Ken	teachers.
		複数	They Ken and Tom	
Are	三人称	They Ken and Tom	are	



ペアでQ&Aをする→全体の前でペア発表する→教師と会話する

A : Is she a teacher? (教室内の女子生徒を指しながら)

B : No, she isn't. She is a teacher.

A : Are Takashi and Saki teachers? (教室内の二人の生徒を指しながら)

B : No, they aren't. They are students.

② 一般動詞

疑問文	主語(～は)		一般動詞	～を
Do	一人称	I	play	baseball.
Does	二人称	You	plays	
	Do	三人称		単数
複数			They Ken and Tom	



ペアでQ&Aをする→全体の前でペア発表する→教師と会話する

A : Does she play baseball? (教室内の女子生徒を指しながら)

B : No, she doesn't. She plays tennis.

A : Do Takashi and Ryo play baseball?
(教室内の二人の生徒を指しながら)

指す生徒数が一人(単数)のときは Does, 二人以上(複数)のときは Do であることを確認させています。

B : Yes, they do. They play baseball very well.

適切な疑問文を構成することが
苦手な生徒への手立ての例



ポイント チャンツを活用する。

主語に対する動詞の対応について、視覚的に理解させるだけでなく、
小学校外国語活動で慣れ親しんだ「チャンツ」を用いて、定着を図ります。

チャンツ1

A: Do you like sports?
Do you like sports?

B: Yes, I do.
Yes, I do.

A: What do you play?
What do you play?

B: I play (スポーツ名).
I play (スポーツ名).

A: When do you play it?
When do you play it?

B: I play it on Sunday.
I play it on Sunday.

チャンツ2

A: Does Ken(Yumi) like sports?
Does he(she) like sports?

B: Yes, he(she) does.
Yes, he(she) does.

A: What does he(she) play?
What does he(she) play?

B: He(She) plays (スポーツ名).
He(She) plays (スポーツ名).

A: Where does he(she) play it?
Where does he(she) play it?

B: He(She) plays it in the gym(on the ground).
He(She) plays it in the gym(on the ground).

課題2 話の流れの理解

県の通過率 54.0% → 76.1%

問題 9

次の 内の英文に続けて、①～③の英文を並べかえて、まとまりのある文章をつくります。話が最も自然な流れになるように並べかえたものを、下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

Hi. My name is Lisa.

- ① We listen to them every evening.
 ② I have a sister.
 ③ We like music and we have some CDs.

ア ②-①-③ イ ②-③-① ウ ③-①-② エ ③-②-①

<経年比較>

年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
通過率(%)	54.6	56.5	70.6	45.1	54.0	76.1

主な誤答と無解答	割合(%)
ア	11.0
ウ	6.2
エ	4.2
無解答	1.5

誤答
ア

英文①と英文③の代名詞 We が、英文②の I と a sister を表していることを捉えているが、英文①の them が英文③の some CDs を表していることを捉えていない。 【11.0%】

誤答
ウ・エ

代名詞 We が先に述べられた内容を受けて、使われていることを理解していない。 【10.4%】

この設問は、平成19年度から出題し、継続した課題であった。

今年度は、話の流れを理解し、英文を並べかえて、まとまりのある文章をつくる力の定着状況に改善がみられた。

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 英文を日本語に訳させるだけの指導で終わるのではなく、代名詞、副詞のはたらきを理解させ、その上で代名詞 we, it, our や副詞 there 等が何を示しているのかを考えさせて、文の意味やつながりを正しく捉えさせましょう。

- 年間指導計画において、読むことの指導の中に、話の流れを捉えることをねらいとして英文を読ませることを位置付けましょう。話の流れを捉えさせるためには、文と文の順序や相互の関連について考えさせることが大切です。



<事例紹介> 江田島市立大柿中学校

ポイント

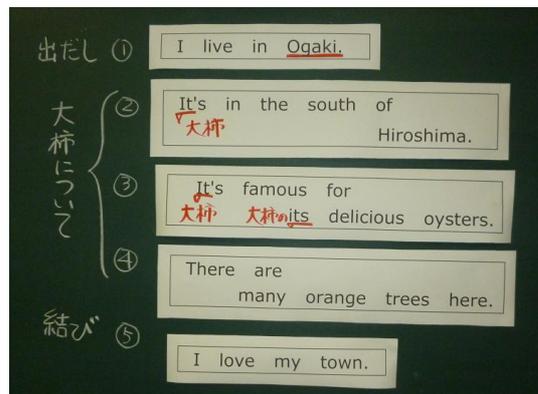
「英文短冊カード」を活用する。

- ① 日本語訳で終わらず、副詞や代名詞が何を示しているかを考えさせる機会を設定する。
※ 読むことの指導の中で、副詞や代名詞が何を示しているかをたずねる機会を多く持ち、それを考えることに慣れさせる。
- ② 読むことの指導の中に、話の流れを捉えさせるために、文と文の順序を考えさせる場面を設定する。

文の並び替え短冊カードを活用し、副詞や接続詞、代名詞に注意しながら文と文のつながりを考えさせる活動を行っています。



- ③ 英語で表現させる際に、目標の一つとして副詞や代名詞を適切に用いて表現することを設定する。



ポイント

文につながりを持たせるための英作文指導を行う。

- 英文日記を書いたり、自分の身近なことを5文程度で表現させたりする活動を設定する。その際に、つながりを持たせるためのポイントを示す。
 - テーマや時間の流れを明確にして書いていく。
 - 接続詞や代名詞を適切に用いる。
 - 事実を示す文と、自分の気持ちを表す文とを区別して、分かりやすくする。 等

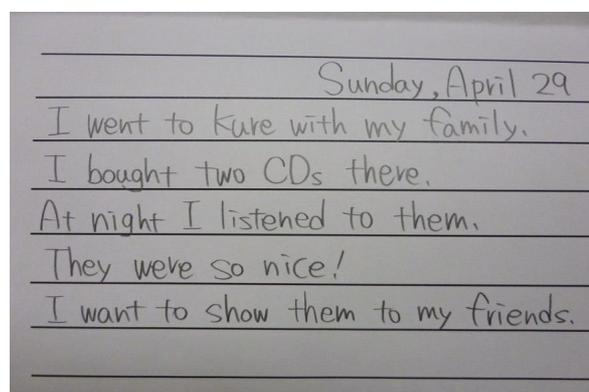
My Diary

2年()組()番()

☆原則として1週間以内のある日(ゴールデンウィークなど特別な日も可)について、
話の流れを考えて、わかりやすく英語で日記を書こう。

表現上の目標&自己チェック

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> □ 3文以上書いている。 □ 「時間の流れに沿って」または「話題をしぼって」表現されている。 □ 接続詞、副詞、代名詞を1つ以上用いている。 □ 感想(気持ち)が表現されている。 | <p>使いたい表現例</p> <ul style="list-style-type: none"> in the morning 等、時の表現 And / But / So 「だから」等、接続詞 there / then 等、副詞 it / we / they 等、代名詞 It was exciting. 等、感想の表現 |
|--|--|



課題3 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと

県の通過率 55.8% → 63.2%

問題 10 2

次の1・2は、あなた自身のことについてたずねています。
 答えをIで始まる英文1文で書きなさい。

2 あなたはこの前の土曜日(last Saturday)に何をしましたか。

I _____ last Saturday .

<経年比較>

年度	通過率(%)	無解答率(%)
平成 24 年度	63.2	6.9
平成 23 年度	55.8	8.0
平成 22 年度	52.7	9.0
平成 21 年度	48.2	11.0

	主な誤答と無解答	割合 (%)
1	語順は正しいが、過去形になっていない	13.4
2	be 動詞と一般動詞を一緒に使って書いている	3.4
3	英文は正しいが、現在進行形や過去進行形で書いている	2.7
4	内容的にも文法的にも理解できない英文を書いている(語順の誤り、動詞の脱落など)	1.9
5	上記以外の解答	7.4
6	無解答	6.9

この設問は、平成21年度の調査から継続的に通過率が60%未満であり、継続した課題であった。

平成21年度からの通過率及び無解答率の変化をみると、年々、定着状況に改善が図られている。

誤答 1-3

語順は正しいが、正しい時制(過去形)を用いて書くことができていない。
 【16.1%】

誤答 2・4・5

正しい語順や語法を用いて文を書くことができていない。
 【12.7%】

昨年度の報告書で示した指導改善のポイント

- 英文を書かせるときに、現在形、過去形といった時制に注意をさせましょう。また、書かせた後読み直させ、時制を必ず確認させましょう。
- 肯定文、疑問文、否定文を書かせるときには、現在形と過去形の両方の英文を書かせる活動を行いましょう。その際、生徒の書いた英文の誤りを取り上げるなどして、動詞、助動詞などの語形の変化についての理解を深めましょう。



- John called you.を You called John.と順序を変えると意味が大きく異なるといった例を示し、英語では意味の伝達において語順が重要な役割を担っていることを理解させましょう。
- 英語の語順について、日本語と対比させたり、図式化したりして理解させながら、語順に注意して話したり、書いたりさせましょう。

<事例紹介> 福山市立鞆中学校

ポイント

毎時間ウォームアップで様々な時制を取り入れたQ&A(ペアワーク)を行う。

	question	月/日	得点
1	What subject do you like?		
2	How many CDs do you have?		
3	Did you watch TV last night?		
4	What time did you go to bed last night?		

時制に注意をさせるために、活動、家庭学習、テストにおいて、現在形、過去形といった時制の異なる英文を取り入れています。

既習の構文を定着させるために、ペアでQ&A活動をさせ、質問に答えられた数を記録させる。



ポイント

定着度を授業や定期テストで検証する。

- ウォームアップでのQ&Aの答えをノート等にかきさせる。また、定期テストにも出題する。
Q1 Did you study English yesterday?
Q2 What time did you get up this morning?
Q3 What do you do after school?

- 毎時間のペアワークの定着度を検証する。
- 生徒のつまづきを把握し、授業でその都度、指導を行う。

<つまづきの把握の例>

(1) What did you do yesterday?

誤答例1 現在形を使って答えている

(I study English. / I play baseball. など)

誤答例2 be動詞+一般動詞で答えている

(I'm studied English yesterday. / I was studied English yesterday. / I was study English yesterday.)

<指導例>

誤答例1について

○時制を意識させる指導

・質問文において、過去を表すキーワード(ここでは"yesterday")に線を引かせる。
・didでたずねられているのか、doでたずねられているかに着目させ、ここでは"did"でたずねられているから過去のことだと認識させる。

誤答例2について

○文法の基礎を再確認させる指導

・文法を定着させるために、現在形、過去形を表す言い方等を繰り返し練習し、確実に使えるようにしていく。(ドリル学習)

ポイント

授業と家庭学習をつなげる。

- ◆ 次の文は、あなた自身のことをたずねています。自分のこととして質問に答える英文を書きなさい。

- (1) あなたは何時に起きますか。
- (2) あなたは昨日何をしましたか。
- (3) あなたは昨日何時に寝ましたか。
- (4) あなたは今何をしていますか。

- 生徒の提出した家庭学習でつまづきを把握し、授業で、解説・指導を行う。
- 類似問題を複数作り、さまざまな時制に対応できるように繰り返し学習させる。

<つまづきの把握の例>

(2) あなたは昨日何をしましたか

誤答例1 過去進行形を使って答えている

誤答例2 現在形を使って答えている

誤答例3 be動詞+過去形で答えている

<指導例>

誤答例1について

○質問文を再度読ませ、「していた(過去進行形)」「した(過去形)」の違いを認識させる。

誤答例2について

○時制を意識させる指導

・質問文において、時を表すキーワード(ここでは「昨日」)に線を引かせる。
・「する」「した」「するつもり(予定)」など、時を表す言い方(ここでは「しました」)に線を引かせ、それぞれ、どんな形(時制)を使えばいいか、考えを出させる。

※誤答1・2には、過去形などの英語の文法が定着していない場合と、質問文を正しく読んでいない場合の2通りが考えられるため、質問文を正確に読むことと過去形の英文を繰り返し徹底させる。